

579

CA19-9 測定値乖離の原因解析

藤原拓樹（大阪府済生会中津病院・検査技術科）

CA19-9 測定キットにおいて、セントコア社の NS19-9 抗体とバイオミラ CA19-9 キットの B25・10 抗体ではバイオミラ CA19-9 キットの方が有意に高値を示す測定値間の乖離が見られたので、電気泳動法、double determinant assay で乖離の原因分析を行なった。

5%アクリルアミドゲルを用いる SDS-PAGE 法（Coomassie 染色）で、3 社標準液 CA19-9 抗原の分子量を測定すると、それぞれ 240 KD 付近に泳動されることより抗原は同一と考えられる。同様に乖離した検体では 240 KD 付近と 430 KD 付近に二種類のバンドが確認できた。さらに double determinant assay ではバイオミラ法では 46.5 U/ml，セントコア法およびアイソトープ標識抗体組替えの 2 法では平均 9.2 U/ml と有意な測定値差がでた。つぎに抗体の反応性を見るため一次抗体に NS19-9 抗体と B25・10 抗体を、二次抗体に抗マウス IgG (H+L) : ELISA 法を用いウェスタンブロット法を行なったところ、分子量 240 KD の CA19-9 では両方の抗体とも反応するが分子量 430 KD の CA19-9 は B25・10 抗体としか反応性を示さないことがわかった。